

## 投 稿 規 定

- (1) 掲載後の論文の著作権は、日本核医学会に属し、その全部または一部を如何なる方法によっても無断で出版、複製してはならない。
  - (2) 利益相反状態の開示義務  
「核医学」に投稿するすべての著者は、投稿時に「一般社団法人日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針 — 施行細則」に定める「著者の利益相反に関する自己申告書」(書式2)により利益相反状態を明らかにし、提出しなければならない。「一般社団法人日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針」で規定された利益相反状態にある企業や団体がある場合には、その企業名や団体名を論文末尾に記載すること。利益相反状態がない場合は、責任著者が他の全著者を代表して前記書式を提出してよい。また、論文末尾に「利益相反に該当なし」などの文言を入れ、その旨を明記すること。
  - (3) 原稿の内容は放射性同位元素の医学応用に係わる研究およびこれに関連する分野で下記の項目に該当し、他誌(外国誌を含む)に未発表のものとする。なお、基礎および臨床研究のいずれにおいても、生命倫理に充分配慮されたものであること。また、投稿論文に関する臨床研究の臨床試験登録に関して、厚生労働省「臨床試験に関する倫理指針」(平成21年4月施行)の示す介入研究に相当する場合には、公開データベースへの臨床試験登録が必須である(詳細は本指針を参照のこと)。
    - a) 原 著：独創性に富み、目的、方法、結論等の明確な研究論文。  
原稿の枚数制限なし。刷上り4頁(図表を含む、以下同じ)まで無料。
    - b) 症例報告：核医学診断または治療が有用であった稀な臨床経験を簡潔にまとめた論文。  
原稿の枚数制限なし。刷上り3頁まで無料。
    - c) 短 報：独創的ではあるが、部分的または断片的な研究を簡潔にまとめた論文。  
原稿は、刷上り4頁以内を厳守。無料。
    - d) 技術報告：技術、装置、医薬品の開発、改良、安全取扱などに関する経験や治験をまとめた実用価値のある報告。  
原稿の枚数制限なし。刷上り3頁まで無料。
    - e) 総 説：名誉会員、教育講演者、外国人講演者などに総説を依頼する。  
原稿は刷上り5頁を原則とする。無料。
    - f) 編集者への手紙：掲載論文への意見および回答。  
掲載後2ヶ月以内の掲載論文への意見および回答。  
原稿は刷上り1/2頁以内とする。
    - g) 学会抄録：日本核医学会学術総会および地方会発表論文の抄録で400字以内図表なしとし、質疑応答は掲載しない。
    - h) 寄稿、資料、トピックス、ニュース、報告：原稿枚数は限定せず。無料。
  - (4) 原稿の採否、掲載順序、項目は編集委員会で決定する。
  - (5) 特に急いで掲載を希望する際は、その旨編集委員会に要請することができる。ただし、特別掲載料を必要とする。アート紙またはカラー写真を希望する場合は実費を著者負担とする。
  - (6) 別刷を希望する場合には実費を著者負担とする。
  - (7) 投稿原稿には査読のため、正1部のほか副2部をつける。本文・図表はコピーでよいが、写真は正・副計各3枚を必要とする。
  - (8) 原稿は書留便にて下記に送付のこと。  
(郵便番号113-0021) 東京都文京区本駒込2丁目28番45号 (公社)日本アイソトープ協会本館3階  
一般社団法人日本核医学会事務局 電話 03-3947-0976 FAX 03-3947-2535
- \* (1998年8月以降の投稿より適用, 2003年5月一部改訂, 2004年6月一部改訂, 2010年2月一部改訂, 2010年3月一部改訂, 2010年9月一部改訂)

## 執筆上の注意

- 1) 原稿は和文とし、ワードプロセッサ使用、A4判、横書き、30字×27行（810字）で作成し、余白および行間を充分にあけること。（原稿2枚がほぼ刷り1頁に相当する。）原稿本文には希望項目、題名、著者名、著者所属、連絡先、キーワード（英語5語以内）、和文要旨（200～400字）、英文要旨（300語以内）、本文、引用文献、表、図の説明文（英文）の順に記載し、タイトル頁から各頁に通し番号を入れる。図、および写真は別葉とする。要旨の書き方は、①目的、②方法、③結果、④結論を各々簡略に記載する。「臨床試験に関する倫理指針」施行以降に開始された研究で本指針に相当する場合、公開データベース登録が行われている旨およびその登録番号などを要旨末尾に明示すること。臨床試験登録の義務のない後ろ向き研究による論文では、後ろ向き観察研究であることを本文に明記すること。
- 2) 別に題名、連絡者名および連絡先、希望する有料別刷部数を明記した表紙をつける。
- 3) 図表および写真は鮮明なものであること。仕上り寸法は、横6×縦8cmを最小サイズとし、図表に応じて大きさを設定する。設定に関しては原則として編集委員会に一任されるが、特に大きさに希望のある場合は、予め明記する。図および写真には各々裏面に図の番号、著者氏名を記載する。  
なお、図表写真内の文字およびその説明には英文を用いる。ただし、図表の転載が必要な時は、著者の責任において転載許可を得た上で記載する。
- 4) 用語は原則として核医学用語集（日本アイソトープ協会編）に準ずること。日本語訳語のあるときは、出来るだけ日本語を用い、英文を用いるときは原則として小文字を使用する。
- 5) 単位の表示には原則としてSI単位を用いること。
- 6) 放射性医薬品名については本文中で最初に記載する時に、化学名（日本語または英語）を記載し、以後略称を用いる場合にはかっこ書で付記する。題名の中では一般化した略語は用いてよい。英文抄録では最初に用いる時に化学名を記載し、以後略称を用いる場合はかっこ書で付記する。タイトルの中では一般化した略語は用いてよい。病名、装置名等も、最初は省略せずに記載し、以後は略語を用いてもよい。核種の表記は元素記号の左肩に質量数を書く。（例  $^{99m}\text{Tc}$ ,  $^{111}\text{In}$ ,  $^{67}\text{Ga}$  など）
- 7) 引用文献について
  - a) 引用文献は掲載が決定されているものは可とする。
  - b) 引用文献としてパンフレットないしメーカー主催の研究会における記録集は認められない。
- 8) 引用文献の記載方法
  - a) 記載順序は引用順とし、1), 2), 3) ... と続ける。
  - b) 欧文雑誌は、Index Medicusにならう。ただし、著者名は6名まで記載し、以下はet alとする。  
[例] Virgolini I, Raderer M, Kurtaran A, Angelberger P, Banyai S, Yang Q, et al: Vasoactive intestinal peptide-receptor imaging for the localization of intestinal adenocarcinomas and endocrine tumors. *N Engl J Med* 1994; 331: 1116-1121.
  - c) 和文雑誌は、著者名、題名、雑誌名、年号（西暦）、巻数、頁の順とし、著者名は6名まで記載し、以下は他とする。  
[例] 久保敦司, 橋本 順, 中村佳代子, 岩崎隆一郎, 宮崎知保子, 油野民雄, 他: 多施設による  $^{99m}\text{Tc}$ -MAG3 腎機能定量解析の精度の検討. 核医学 1997; 34: 1101-1109.
  - d) 著書は和・欧文ともに、著者名、論文名、編集者名、書名、発行社名、発行地名、発行年（西暦）、頁の順で記載し、著者名は全員を記載する。分担執筆の場合、分担者が明記してある場合はこれを記載する。  
[例] 村田 啓: 心筋血流シンチグラフィ. 久田欣一, 古舘正徳, 佐々木康人, 小西淳二編, 最新臨床核医学. 金原出版, 東京, 1991: 255-270.  
[例] Rauschnig W: Brain tumors and tumorlike masses: Classification and Differential Diagnosis. In: Osborn AG, ed. *Diagnostic Neuroradiology*. Mosby-Year Book, Inc., St. Louis, 1994: 401-528.

---

 賛助会員名簿
 

---

会社名	〒	住所	電話番号
日立アロカメディカル株式会社	181-8622	三鷹市牟礼 6-22-1	0422 (45) 5111
株式会社島津製作所	604-8442	京都市中京区西ノ京桑原町 1	075 (823) 1268
富士フイルム RI ファーマ株式会社	104-0031	中央区京橋 2-14-1 兼松ビルディング	03 (5250) 2600
東芝メディカルシステムズ株式会社	324-8550	大田原市下石上 1385	0287 (26) 6211
塩野義製薬株式会社 創薬・探索研究所	561-0825	豊中市二葉町 3-1-1	06 (6331) 8237
株式会社日立メデイコ	101-0021	千代田区外神田 4-14-1 秋葉原 UDX 18 階	03 (3526) 8340
GEヘルスケア・ジャパン株式会社	191-8503	日野市旭が丘 4-7-127	042 (585) 5151
日本メジフィジックス株式会社	136-0075	江東区新砂 3-4-10	03 (5634) 7006
株式会社テイエフピー	103-0007	中央区日本橋浜町 2-62-5 FR ビル 8 階	03 (5695) 9353
セティ株式会社	100-0013	千代田区霞ヶ関 3-6-7 DF 霞ヶ関プレイス	03 (3403) 0331
住友重機械工業(株) 量子機器事業部 品質保証部	792-8588	愛媛県新居浜市惣開町 5-2	0897 (32) 6370
公益社団法人日本アイソトープ協会	113-8941	文京区本駒込 2-28-45	03 (5395) 8021
シーメンズ・ジャパン株式会社	141-0022	品川区東五反田 3-20-14 高輪パークタワー	03 (5423) 8422
安西メディカル株式会社	141-0033	品川区西品川 3-6-25	03 (3779) 1611
住重加速器サービス株式会社	141-0032	品川区大崎 1-17-6 日昇ビル 4 階	03 (5421) 8522
株式会社千代田テクノ	113-8681	文京区湯島 1-7-12	03 (3816) 5256
バイエル薬品株式会社	530-0001	大阪市北区梅田 2-4-9 プリーセンター	06 (6133) 7500
株式会社エスアールエル	192-8535	八王子市小宮町 51	0426 (48) 3775
第一三共株式会社	103-8234	中央区日本橋 3-14-10	03 (3246) 7160
フィリップスエレクトロニクスジャパン	108-8507	港区港南 2-13-37 フィリップスビル	03 (3740) 3049
株式会社マイクロン	100-0005	千代田区丸の内 3-8-1 住友不動産丸の内ビル	03 (6268) 0305
JFEテクノス株式会社	230-0045	横浜市鶴見区末広町 2-1	045 (505) 6522
日本イーライリリー株式会社	651-0086	神戸市中央区磯上道 7-1-5	078 (242) 8163
アステラス製薬株式会社	305-8585	つくば市御幸が丘 27	029 (863) 7198
株式会社セルート	169-0075	新宿区高田馬場 1-31-18	03 (5285) 5039
株式会社アトックス	650-0047	神戸市中央区港島南町 2-1-11 市民病院前ビル	078 (599) 6851
大正製薬株式会社	170-8633	豊島区高田 3-24-1	03 (3985) 1111
ファイザー株式会社	151-8589	渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル	03 (5309) 7000
ラドセーフテクニカルサービス株式会社	101-0021	千代田区外神田 3-10-12	03 (3255) 2691
三田理化学工業株式会社	531-0076	大阪市北区大淀中 2-8-2	06 (6458) 0971
株式会社ワカイダ・エンジニアリング	174-0043	板橋区坂下 3-27-7	03 (3969) 3339
セティ・メディカルラボ株式会社	100-0013	千代田区霞ヶ関 3-6-7	03 (5510) 2932
上海富吉医療器械有限公司東京事務所	185-0034	国分寺市光町 3-28-12	
エーザイ株式会社	112-8088	文京区小石川 4-6-10	03 (3817) 5245
中外製薬株式会社	103-8324	中央区日本橋室町 2-1-1	03 (3273) 0873 (御入会順)

===== 日本核医学会編集委員会 =====

<b>委員長</b>	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系 核医学
<b>副委員長</b>	佐賀 恒夫	独立行政法人放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター 分子病態イメージング研究プログラム
<b>編集委員</b>	東 達也	滋賀県立成人病センター研究所
	久慈 一英	埼玉医科大学国際医療センター 核医学科
	犬伏 正幸	川崎医科大学 放射線医学 (核医学)
	坂本 攝	獨協医科大学病院 PET センター
	田代 学	国立大学法人東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター サイクロトロン核医学研究部
	百瀬 満	東京女子医科大学 画像診断・核医学科
	金田 朋洋	国立大学法人東北大学病院 放射線診断科
	中條 正豊	国立大学法人鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 放射線診断治療学
	志賀 哲	国立大学法人北海道大学大学院医学研究科 病態情報学講座 核医学
	土田 龍郎	国立大学法人福井大学医学部 放射線科
	西井 龍一	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院 放射線科
	巽 光朗	大阪大学医学部附属病院 放射線部
	沖崎 貴琢	国立大学法人旭川医科大学 放射線科
	奥 直彦	兵庫医科大学 核医学・PET センター
	加藤 克彦	国立大学法人名古屋大学大学院医学研究科 医療技術学専攻医用量子科学講座
	野上 宗伸	国立大学法人高知大学医学部附属病院 PET センター
	石守 崇好	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 放射線科
	今林 悦子	国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター 臨床脳画像研究部
	山本 由佳	国立大学法人香川大学医学部放射線医学講座
	Mei Tian	Department of Nuclear Medicine The Second Hospital, Zhejiang University School of Medicine
	豊原 潤	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム
	茨木 正信	秋田県立脳血管研究センター 放射線医学研究部
	高橋 康幸	群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部
	小川美香子	浜松医科大学 メディカルフォトンクス研究センター 分子病態イメージング研究室
	森田 智視	京都大学大学院 医学研究科 医学統計生物情報学

編 集 後 記
---------

皆様ご存じのように、現在「核医学」は第50巻を迎えております。発刊50年目ということで、これを記念して、本号に「核医学 - 第50巻発刊を記念して」という記事を掲載させていただきました。昔を思い出しながらこの記事懐かしく読まれた先生方も多いことかと思えます。私自身を振り返ってみますと、大学院に入って初めて書いた論文は、今から25年前の1988年に「核医学」に掲載されました。卵巣癌の腫瘍マーカーアッセイキットの性能評価に関する論文でしたが、一生懸命原稿を書いて上司の先生に見てもらったところ、少しして真っ赤になって手元に戻ってきたことを思い出します。初めての論文作成で、いろいろと苦労しましたが、晴れて論文が掲載されたときは大変うれしかったのを覚えております。その後、時間が経過し、気がつけば、私が若い研究者の方の書いた論文に朱を入れる立場になってしまい、時の流れる早さを痛感しています。同時に、私自身も引き続き現役として、初心を忘れることなく真摯に研究、論文作成に取り組みたいと思っております。

「核医学」は本号で第50巻も終わり、次号から第51巻として新たな50年に向けてのスタートを切ることになります。「核医学 - 第50巻発刊を記念して」にも記載されていますように、「Annals of Nuclear Medicine」の刊行に伴い、和文誌である「核医学」の役割も大きく変わりつつあります。今後、国際化、研究成果の世界に向けての発信が重要になってきますが、「Annals of Nuclear Medicine」「核医学」もこの流れの中で着実に適応、進化していく必要があると思っております。「Annals of Nuclear Medicine」への投稿論文数は増加の一途をたどっており、日本のみならず海外からの投稿数も増えております。これに対応すべく、編集委員の増員を行ったところです。これからも編集委員の一員として「Annals of Nuclear Medicine」「核医学」両誌の発展に貢献できるように努力して参りたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(放医研 佐賀 恒夫)

---

「核 医 学」第50巻4号 平成25年11月30日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹 谷 清 剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 (公社)日本アイソトープ協会本館3階

発 行 所 一 般 社 団 法 人 日 本 核 医 学 会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

---

印 刷 所 株 式 会 社 海 川 企 画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

---

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社